

熱交換塗料・防錆塗料

工法研究会が新規会員を募集



実績追い風に関東甲信越に拡大



塗装面を洗浄後、下塗り、中塗り、上塗りと数層に渡って塗装する。

長野県内で2012年に発足した「甲信越地区熱交換塗料工法研究会」が、県内外で順調に熱交換塗料(開発・アルバー工業)の導入実績を伸ばしている。業績の向上を追い風に「関東甲信越地区熱交換塗料・防錆塗料工法研究会」(事務局・長野市)を新たに発足させるとして、現在会員企業を募集している。

抑制する特性を持つ。夏と冬の寒暖の差が大きいところで強みを発揮する塗料だ。一般販売から10年、県内での販売開始から4年が経過した昨年、長野工業高等専門学校が原理の究明に乗り出すなど、学界の関心も高い。銀行の外壁改修を手がけた横井(飯田市)の横井豊文社長は「真夏は表面温度が10℃、20℃ほど未塗装部分より涼しく、冬は必要な

太陽熱を取り込みつつ、さらに断熱性能も高まった」と効果を話す。最近では、長野駅前ビルの屋上に熱対策と防水層の塗膜保護を目的に採用された。施工したマルセン(千曲市)の本澤和人副社長は「今夏は猛暑が予想されており、お客の反応が楽しみ」と期待を込める。

中信地区の戸建て住宅などで数十軒の施工実績を持つ宮下塗装店(安曇野市)の高山護社長は「お客に喜ばしやすくなったと言ってもらえるのが何よりうれしい」と話す。建物の屋根や壁面、橋梁や歩道、プールサイドほか、一般住宅への採用も伸びている。

研究会では、熱交換塗料を鉄面に塗装する際の下地処理に使用する「防錆プライマーCCP」についても防錆剤単体としての性能に

自信を示す。CCPは、メッキなどの素材の耐食性能を調べるCASS試験で264時間クリアの認証を受け、さらに、国内鉄道会社からの要望で開発された焼き付けタイプは700時間を突破。効果比較試験で「最高品質」とされた。キユービクルや車輛部品などへの採用が進んでいる。鉄塔やH形鋼などの防錆にも高い効果を発揮するとして、京浜工業地帯など沿岸部の防錆対策に用いられるようになったほか、自動車の車体下部や電光掲示板などへの採用も増えている。

熱交換塗料と防錆プライマーCCPは、カーボンオフセット認証を取得。CO2削減にも貢献する。新しい工法研究会には木曾町の西峯建設が参入するなど会員の輪も広がってきた。「店頭販売せず、責任施工

で地道に普及に努めてきた成果」(事務局・原田隆志氏)として、さらなる拡大を狙う。

事務局＝電話026-262-1254、Eメール: cool@ftj.co.jp、HP: https://cool.ftj.co.jp/.